

地域の力で行方不明者を早期発見

現在、国民のおよそ4人に1人が65歳以上、7人に1人が75歳以上という、超高齢化社会となった日本。高齢化は今後も進み、認知症の高齢者の数はさらに増加することが予想されます。市では、警察や民間団体と連携する「SOSネットワーク」で、認知症による行方不明者の早期発見に努めています。

認知症による徘徊で 行方不明者が急増

警察庁の発表によると、平成28年中に、全国の警察に捜索願が届け出された行方不明者のうち、認知症による徘徊で行方が分からない



くなっただと思われる人は、1万5、432人。その数は年々、増え続けています。

行方不明になった認知症高齢者のうち、7割以上は警察が届け出を受け、そのほかの人も、1週間以内に見つかる場合がほとんどですが、中には1カ月以上見つからないことも。特に気温が下がるこれからの季節は、凍死などの恐れもあり、早期発見が生死を分ける重要な鍵となります。

連携プレーで 徘徊高齢者を発見 SOSネットワーク

認知症による徘徊で行方不明になった人の6割以上は、警察の捜

索活動や地域の人の通報により発見されています。反対に、家族による発見や、自力で帰宅するケースは3割程度にとどまります。

このことから、早期発見には、警察への迅速な届け出と、地域の人の協力が不可欠といえます。そこで市では、警察や駅・配送事業者・コンビニエンスストアなどと協力し、行方不明になった高齢者などを保護するSOSネットワークを導入しています。

警察に捜索願が届け出されると、その対象者の情報を、ファクシミリや防災行政無線で広域に伝え、保護につなげます。平成11年の導入以来、512件の依頼があり、ほぼ全てがSOSネットワークに加盟している協力団体からの通報により、発見につながりました。

現在、加盟している団体には、次のようなものがあります。

協力団体Ⅱ 駅、配送事業者、コンビニエンスストア、金融機関、ガソリンスタンド、新聞店、交通機関、福祉施設、郵便局、宿

泊施設など

あなたの力が必要です 協力団体を募集

市では、SOSネットワークに加盟する協力団体を募集しています。協力団体には、団体名とファクシミリ番号を登録してもらいます。

このほかにも、個人に向けて、なりたメール配信サービスで行方不明者の情報提供を行っています。まだ登録していない人は、この機会にぜひ登録してください。登録するには、登録用アドレス(into@ss-ctc)に空メールを送信し、返信メールに従ってください。

また、認知症により徘徊していると思われる高齢者を見つけたら、速やかに成田警察署(☎27・0110)に連絡してください。

※くわしくは、SOSネットワークについては高齢者福祉課(☎20・1537)、なりたメール配信サービスについては危機管理課(☎20・1523)へ。

高齢者早期発見ステッカーの配布

認知症などによる行方不明者の早期発見や身元確認のため、市では履物のかかとやつま先に貼る反射シール状のステッカーを交付しています。交通事故の防止にもつながりますので、ぜひ利用してください。

対象＝市内在住で、認知症により行方不明になる恐れのある65歳以上の人

申請方法＝本人またはその家族が、印鑑と申請者の本人確認ができるものを持って、高齢者福祉課(市役所議会棟1階)または下総・大栄支所へ。任意で対象者の写真を登録することもできます

利用料＝無料

※くわしくは高齢者福祉課(☎20-1537)へ。